

第4次日籍老戦士訪中記

見本重宏

胡錦濤主席の発案及び国務院・共産党・人民解放軍の指示により、中国国際友好連絡会が2010年から実施している「解放戦争・初期中国建設への功績に対する感謝」を目的とする「第4次日籍老戦士訪中事業」が、7/29~8/5の日程で行われました。今回の訪中団の特徴は、第1世代(老戦士)17名、第2世代(7名)、第3世代(5名)、夫人・付添を含め33名となり、87歳~16歳の方が参加した事です。中国大使館孫永剛領事の指名を受け秘書長として訪中し、深澤芳蔵団長(83歳：元第38野戦軍砲兵)の下、交流活動を行いました。その中で帰国前日の大連最終日(8/4)に、秘書長としての友連会スタッフとの意見交換、訪中総括として2世代・3世代の感想・意見交換会開催は、双方今後に繋がる非常に意義深い事だと考えます(第1世代を含め団員16名参加)。

また、今回の訪中団には友連会亜州部岑松副主任始め9名(医師・看護師含む)や各地で解放軍救急車の随行等、中国側の訪中団にたいするVIP待遇の配慮が随所に見られました。

■7月29日(日)：出発

団員は羽田(24名)千歳(2名)、関西(3名)、福岡(4名)より北京に向け出発するが、北京空港の混雑により到着が大幅に遅れ、最終組(福岡)の北京歌華開元大酒店到着は、翌日午前1時頃となる波乱含みの船出となった。

■7月30日(月)：国際友連会歓迎会・釣魚台での「人民解放軍総政治部副主任との会見」

ホテルで結団式を行い市内観光後、陳祖明友連会副会長主催の昼食歓迎会(北京ダック料理の老舗：全聚徳)に招かれ「老戦士に対する感謝の辞」を頂き、料理を満喫すると共に団員同士の懇親が始まる。陳副会長とは以前京都・大阪でお会いした事があり、再会の喜びを分かち合う。

食事後ホテルで正装し、訪中のメインである人民解放軍総政治部主催の会見・歓迎宴会場所の釣魚台迎賓館八方苑に向う途中、団員及び友連会双方に緊張感が漂い始める。

護衛兵が立つ釣魚台門より入り、広大な敷地内の樹林・庭園・池・川・豪華な建物をバスで遊覧し、八方苑に到着。玄関では、解放軍広報担当によるビデオ及びカメラの放列の中、2列に並んだ佐官級軍人に出迎えて頂く。その間を深澤団長先頭に副団長・秘書長・団員の順番で入り、これから普段の生活では考えられない時空間を体験する事になる。

会見場ではビデオカメラが回る中、総政治部副主任呉昌徳中將・秘書長李鳳山少將・友連会邢運明常務副会長・宋恩壘秘書長に温かく迎えられ、指定された場所に着席し会見が始まる。

呉昌徳中將は、歓迎の挨拶で日籍老戦士に対する謝辞と共に「持続的安定した国家建設」の戦略や人民解放軍の現状説明を行い、老戦士が代々友好に引き続き貢献する事を願った。次に深澤団長の答礼終了後、懇談会となり団員履歴及び団構成の特徴を把握していた中將から、秘書長・第3世代・第2世代の順で発言要請がありました。それ故に解放軍総政治部は、日籍老戦士の次世代交流を念頭に事業を展開していると明確に判断できた。

会見終了後歓迎宴会場に移り、豪華な食事を堪能する。呉中將はワイングラスを持ち、各テーブルを回り老戦士・2世代・3世代に声を掛け乾杯・懇談する姿勢に感銘を受ける。最後に呉中將自ら団員への記念品の贈呈、返礼として深澤団長から中將及び幹部への伝統工芸品の贈呈式で終了。帰途、会見時に発言した第3世代青年(24歳：最年長)に、宴会で中將から「どの様な会話があったのか」と聞いた所、呉中將の「発言内容に感心した。政治家に成ったらどうだ」の言葉に対し、「5年後を目途に考える」と答えた様です。和やかな宴会が終了しホテルで休息。

■7月31日(火)：人民大会堂「人民解放軍建軍85周年レセプション」に出席

午前中は、小雨の降る中バスで「人民解放軍北京軍装甲第6師団」を訪問。華瑞新中佐の歓迎の挨拶及び第6装甲師団の説明を受け施設見学を開始。電子機器・コンピュータ・スクリーンを活用した戦車戦闘・遊撃戦・砲撃・機材修理等模擬訓練室を説明員付きで見学。団員は写真・ビデオ撮影に熱中しているが、各部屋の入口には「写真撮影禁止」のマーク。華中佐に「撮影禁止とあるが団員の行動に問題ないのか」と質問した所、ニッコリ笑いながら「日籍老戦士訪中団の視察である為、特別に許可している」との返事であったが、「写真等は飽くまでも個人所有とし動画サイト等に載せない事を後で注意してくれ」と依頼され、帰途バスの中で団員に厳命。その後、田洪建副師団長主催の歓迎会では軍楽隊の演奏もあり、解放戦争中野営地で中国人達と一緒に歌い・踊った日籍老戦士達の姿があり、特に女性老戦士は当時に戻ったかの如く元気そのもの。

ホテルで休息後正装し、「建軍85周年記念レセプション」の為に人民大会堂に移動(携帯・カメラ持参不可)。人民大会堂入口では、全ての出席者は招待状・身分証明書(外国人はパスポート)明示後、金属探知機を潜りボディチェックを受け入場が許可される。2階に移動し、人民解放軍高級幹部・各国北京大使館駐在武官(夫人同伴)等約2000名が集まるレセプション会場にはいる。周りは正装した軍人と同伴者ばかりの中、民間日本人は我々33名のみ、更に青年もいる場所は異空間。前テーブルには中国最初の宇宙飛行士楊利偉少将(国家英雄)がおり、記念撮影を希望する軍人が殺到する。この光景はどの国でも同じ。更に、岑松亜州部副主任の友人である日本大使館桜井武官(海自)に、訪中団の性格と団員の中に東北老航空学校の方もいると説明した所、「林少佐の事は良く聞いている。是非部下の方に会いたい」との事で紹介する。

胡錦濤主席・温家宝総理・習近平副主席等党幹部が着席後、レセプションが始まる。18時より梁光烈国防部長の記念演説が始まり出席者全員耳を傾けるが、私は、何を言っているのか全然分からない悲哀を味わう。

我々2世代・3世代にとって、貴重な体験である事は間違いない。第1次日籍老戦士訪中団(36名)では、建軍記念レセプションに出席したのが、老戦士(24名)のみと比較すると特別な配慮が判る。そこに、中国国際友連会の意図・努力と許可した解放軍共に次世代に込められたメッセージがあると考え。ただ、団員の方達がどの様に理解したかは定かではない。

北京での公式行事が終わり、翌日ハルピンに移動。

■8月1日(水)：ハルピン 黒竜江省人民政府外事弁公室・国際友好連絡会主催歓迎会

空路ハルピンに到着すると、黒竜江省外事弁公室の李勝彬日本所長に出迎えて頂き、またシャングリラホテルへの移動時、李処長の流暢な日本語とユーモアで車中は笑いが絶えない。李氏の話では、ハルピンの語源は「松花江の漁村であった頃、漁を終えた網を乾した岸边」という意味だそうです。辛亥革命後交通の要衝となり、多い時には27カ国の総領事館があったとの事。

ホテルで休憩後市内見学。17時30分から王英春副主任(外事弁公室)、呂占明副会長(友好連絡会)主催の歓迎会に出席。宴会途中で友連会岑松副主任より、訪中最終日に「2世代・3世代の方の訪中感想会を開催したい旨」の打診があり、宴会時に団員の方に提案し拍手で了承をえる。その時、王英春副主任より「是非この場でも3世代の方の感想を聞きたい」旨の提案があり、第3世代更に第1世代のコメントと続く。歓迎会は、歌・踊りの披露など和やかな雰囲気の中でも、真摯な意見の発表の場にもなり非常に有意義な結果を残し終わる。因みに国内線各空港(北京・ハルピン)ではVIP待合室が手配されていました。

■8月2日(木)：731部隊罪証陳列館・東北烈士記念館・中央大街・ソフィア教会見学

公式行事が終わり、本日は史跡巡りとなる。731部隊罪証記念館では、単長清書記に玄関で迎えて頂き、記念館保存活動への資金カンパとして1000元寄贈する。各展示室(日本語説明イヤホン付き)の遺品・写真・等を見る中、「被害者は決して忘れない、加害者側はすぐに忘れる」傾向にある事、歴史に真摯に向き合い被害者の痛みを共有する姿勢が、重要である事を痛切に感じた。単書記との会話時、「日本人は年間入場者20万人の内約5000人程であり、労働組合関係・日中友好関連団体が主流。もっと民間旅行者に来て欲しい」と語られた。反日愛国を強調(被害国としては当然)傾向にあるが、其れだけではない。歴史教育とは何かを考えさせられる。

黒竜江省文化庁王珍珍副庁長に迎えられた東北烈士記念館は、抗日戦争に参加死亡した方達の生き方・精神を中国の次世代に伝えて行く歴史教育の場である。「自ら生きている状況下・時代で何をなすべきか」を考え決断し行動できる人材を育てるのは、各国共通の教育の根本的課題である。私は、日本で戦前・戦中を通じた「反戦烈士記念館」・戦前戦後の「日中友好人士歴史館」(共に仮称)の存在を知らない。中国での抗日の歴史・人間像・思想性を知ると同時に、日本国内で「何をすべきか」「何ができるか」を問われるハルピン市内観光であった。

■8月3日(金)：大連に移動。市内観光、宿泊先：富麗華大酒店(フラマホテル)

大連空港に到着すると、驚く事に一般乗客と異なり飛行機の傍にある友連会手配バスに直接乗り込み市内に直行する(友連会の特別配慮)。バスでは、2年前に大阪で食事を共にした亜州部田雪さんと再会。大和ホテルや旧満鉄本社を見学し、日程終了。

■8月4日(土)：旅順観光。大連市外事弁公室・国際友好連絡会主催歓迎歓送会

旅順軍港や博物館見学後、友誼商城で買い物しホテルで一旦休息。休息時喫茶室で、友連会スタッフ(岑松亜州部副主任及び馬農日本処長・楊琳)と秘書長として気付いた事を総括する形で「今後の日籍老戦士招請事業をより良くする」為に意見交換を行う。また17時30分よりハルピンで約束した「2世代・3世代の訪中感想会」を開催する。1世代(5)・2世代(6)・3世代(5)の出席となり、2世代3世代全員が感想・提案・希望等述べ、発言内容を友連会スタッフが熱心にメモを取っていたのが印象に残る。今後の活動にきっと役立ててくれると確信する。

ホテル2階で18時30分から歓迎歓送会の開始となる。趙力外事弁公室副主任の歓迎の祝辞から始まり、団長指名による秘書長の答礼が終わり、宴会が始まる。1週間を共にした日本人と中国人スタッフ間には、記念撮影や惜別歓談等の友情の輪が広まる。時間が経つのは早く終盤に差し掛かり、日本側澁谷副団長(第1世代)の謝辞に続き、岑松亜州部副主任「4つの感謝」の挨拶で歓送迎会を締める。最後に双方お土産の交換を行い公式行事が終了し、各自部屋に戻る。

■8月5日(日)：大連から帰国の途(成田・福岡・関西)

早朝より各組毎に帰国の途に就く。今回の訪中期間、友連会スタッフの献身的な行動(例：董定君所長が老戦士の転倒を防ぎ、自身負傷)等気配り・手配り・目配りには、本当に頭が下がる。更に、随行救急車が2度出動する等劉方医師・紀静看護師には、本当にお世話になりました。高齢者が多い団員が無事に帰国できたのも友連会スタッフのお陰です。深く感謝します。

私達2世代は、全員で確認した「1世代の意志を引き継ぎ、今回の訪中を契機に交流友情の輪を広げる。各地に帰るが連絡を取り合い、できる範囲の友好活動を行う」事を胸に刻み帰国しました。



中国北京市人民大会堂で



中国北京市釣魚台八方苑で

以上